閉じる　　印刷

授業科目名	科目区分	
経済史特殊講義		
	時間割コード	
講義題目	930200	
Topics in General Economic History	年度	時間割
	2013	前期 未定
担当教員	単位数	教室
山本　裕[Yamamoto Yu]	2	
	対象年次及び学科	
	1～2 経済学研究科	

関連授業科目

日本経済史特殊講義

履修推奨科目

日本経済史特殊講義

学習時間

講義90分　×　15回　＋　自学自習

授業の概要

本講義は大学院基幹科目のひとつとして、経済学において扱い得る普遍的な課題を、歴史学の観点より追及していく。
今年度は、「高度成長」について多角的に考察していく。
ただし、歴史学の観点より、狭義の経済的領域のみに着目して考察するにとどめず、経済的領域の隣接領域をも視野に入れて考察していくこととする。
講義は最初に概説書を輪読し、概説書の読破後、受講者が興味・関心を持つ高度成長に関する文献を輪読していくこととする。

授業の目的

いくつかの著名な出版社から刊行された経済史に関するテキストを読めば、経済史を学ぶ意義とは、経済発展に関するメカニズムを歴史学的に追及する点にあるとされる。
実際、それらテキストが受容された社会状況を考慮すれば、日本を含む「後進国」が、「中進国」へ、そして、「先進国」へと変容を遂げていった時代と重なりあう。
しかし、今日の私達の社会を眺めれば、既に20年以上にわたって、経済発展を多くの人々が実感できない社会となっていることに気付かされる。
その要因は当然のことながら一つではあり得ず、多角的な観点から考察し続けなければならない重要な課題であるといえる。歴史学の観点からは、そもそも私達の社会が経験した「高度成長」の総体が一体何であったのかを追求することが、重要な意味を持つと同時に、他の学問領域と比しても、「成長」が有する両義性という核心に接近出来得る優位な方法論であると思われる。
このような考え方に立った上で、本講義は、「高度成長」の実態の究明を目的に掲げて、進めていくこととする。

到達目標

1)日本社会が経験した「高度成長」について、その実態を概説的に説明できる。

2)日本社会が経験した「高度成長」の時代か、その後の時代に如何なる正負の影響を与えたのか、具体的な事例に則して説明できる。
3)広く社会が経験してきた、あるいは経験するであろう「高度成長」の多面的性格について、個別具体的な説明を通して、普遍的な説明をも行えることができる。

成績評価の方法と基準

毎回の講義への参加状況（リポーターとしての報告と、毎回の議論への参加）と、講義の最後に提出してもらうレポート（リポーターとしての複数回の報告内容を踏まえた、高度成長に関連する内容のレポート）から、総合的観点に立って成績をつける。

授業計画並びに授業及び学習の方法

以上の講義計画を予定しているが、輪読を通じて提出された論点に関する議論が白熱するなどした場合には、計画通り進まなくなる可能性がある。
第1回：ガイダンス
第2回～第5回：武田晴人『高度成長（シリーズ日本近現代史⑧）』の輪読。
第6回～第14回：受講者各自が選択した、高度成長に関する文献の輪読。
第15回：小括

第6回以降の輪読する文献については、担当者が「教科書・参考書等」の項目で掲げる諸書籍の中から選んでも良いし、別個に受講者が選択しても良い。
毎回の講義においては、リポーターはレジュメを用意して指定された輪読箇所について報告し、他の受講者は指定された文献を事前に読んだ上で論点を用意しておく。

教科書・参考書等

【教科書】
・武田晴人『高度成長（シリーズ日本近現代史⑧）』（岩波新書、2008年、820円＋TAX）
上記書籍は、受講者があらかじめ購入しておくこと。
【参考書】
・石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史 5 高度成長期』（東京大学出版会、2010年、5800円＋TAX）
・原朗編『高度成長期の日本経済』（日本経済評論社、2010年、6400円＋TAX）
・武田晴人編『高度成長期の日本経済』（有斐閣、2011年、4400円＋TAX）
・大門正克他編『高度成長の時代（全3巻）』（大月書店、2010-11年、3800円+TAX）
ただし、上記参考文献所収論文を輪読する場合は、文献は講義担当者が用意する。

オフィスアワー

水曜日4時限・5時限。なお、事前にメールで連絡があれば、別途対応する。担当者のメールアドレスは以下の通り。
yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

積極的な受講態度を望みます。無断欠席は厳禁とします。事情があって欠席する場合は、事前に連絡をお願いします。

参照ホームページ

メールアドレス

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp